

---

# 花の乙女にご用心！

森田 ミヤジ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

花の乙女にご用心！

### 【Nコード】

N2350Y

### 【作者名】

森田 ミヤジ

### 【あらすじ】

『ヴァスコ・ダ・ガマ』ってご存知かしら？

私はね、どんな派手な色の蛙かしらと思ってワクワクしていたのに……なんと、ポルトガルの探検家のお名前なんですって。びっくりした？私もそう。じゃあ今日は引き分けね。

(注：ここに書いてある文章は本編に一切関係ありません)

(前書き)

うつくしい はな には とげが あるらしい

おとめ も そうかも

男なんて皆同じね。

頭の中で考えていることといえば、卑猥な事ばかりだわ。

私の前に座っているサラリーマンもスポーツ新聞を広げてイヤらしい記事を読みふけているし、右隣で吊り革に掴まっている男子生徒も私の胸元やスカートの裾をチラチラ横目で見てくるし、左隣で吊り革に掴まっている茶髪の男にいたっては大声で電話の向こうの相手に昨日の情事の様子を事細かに説明しているし。

『ちよつとお兄さん、車内は通話禁止ですわよ』

なんて、後々の彼の人生に大いに役立つ忠告を授けてさしあげたいけれど、今はそれどころではないの。そう。

今の時点で最も問題なのは

私のお尻を撫でまわしている、背後の男。

ああ、朝からなんて不快な思いをさせてくれる男なのかしら。

確かにいくら触っても減るものではないけれど、思春期の乙女のお尻というのはそれはそれで大事なもので　　そう、例えばジヨブズの全財産と引き換えにすると言われたって、容易に二時間は躊躇するくらい貴重で価値のあるものなのよ。

なのに、もう。

振り向いて一発ひっぱたいてやりたいけれど、こつこつ混雑してはそれもままならないし、結局のところ痴漢が私が降りる駅まで我慢するしかないのだわ。

ええ、いいの。

思うさま、お触りなさいな。

きつとご家庭でも奥さまに冷たくされていらっしやるのね？

そこに私のような若くて美しい女子高生が現れて、あなたの目の前に立って無防備な後ろ姿を晒していたものだから、つい矢も楯もたまらなくなつてこのような行為に及んだのでしょうか？

ほんの出来心なのよね。

いいわ、咎めはしません。

私も声を出さないで、あなたの悲しい独り遊びに付き合つてあげるわ。

あら、いやだわ。

男の吐息が、首にかかるほど近い。

え？

何か囁いてきた？

「……き、君も好きなのかい？こ、こつこつこつ……」

まあ、なんて下品な質問！

恥知らずにも程があるわ。

「ね、ね、お金あげるからさ、ふ、二人で、良いところ行こうか？」

お金？

いくら？

アメリカの国防予算と同じくらい？

『良いところ』って何処かしら？  
熱海？

オーストラリア？

「ね、ね……」

いやだわ、もう。

そんなに密着しないでいただきたいわ。

これはそろそろ制裁が必要ね。

純潔を一途に守っている乙女でも殿方の弱点は知っていてよ。

覚悟なさい、女の敵！

私が拳を握りしめ、裏拳の準備をした時

（お嬢さん、お嬢さん……）

どこからか、囁き声が……

あどけない子供の声だわ。

あなたは誰？

（僕は『痴漢撃退の精』です）

まあ、素敵。

とても良いタイミングだわ。

（そうでしょう。お困りだと思って）

ええ。お願いするわ、妖精さん。

（お任せください。どうします？）

? : 痴漢の指がちぎれ飛ぶ  
? : 痴漢の肋骨が適度にへし折れる  
? : 痴漢の心停止

お嬢さん、どうぞ選んでください)

そうねえ……これは一考の余地があるわ。

?は可哀想ね。もしも指がちぎれてしまったら今後の生活がとても不便になってしまうでしょうし。

?も駄目。死なせてしまつては遺されたご家族が気の毒だわ。

そうね、やっぱり?が良いかしら。

『適度に』という言葉も思いやりを感じるし、気に入ったわ。

(?ですね。分かりました……)

などと、やりとりをしている間に

『次は学園前。学園前です。お降りの方はお忘れ物の無いよう……』

あら、もう着いたのね。

お名残惜しいけれど、これで私達の関係もお終いよ、痴漢さん。

私はするりと電車を降りる。

男は慌てて私を追おうとして

「う、うげぼああああああつ!」

まあ……ひどい悲鳴。

大げさな人ね。

でも、自業自得よ。

乙女はいつだって素敵な妖精さん達に守られているの。  
その柔肌に触れるのはブラックマンバと素手で格闘するより危険な  
ことよ。

殿方の皆様、ご用心。

私は騒然とする駅の構内を抜けて改札を出る。

ああ、今日は良い天気。  
とても素敵ね。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2350y/>

---

花の乙女にご用心！

2011年11月5日04時08分発行